

2 中心市街地の現状分析

2-1 大子町の概況

(1) 大子町の位置と地勢

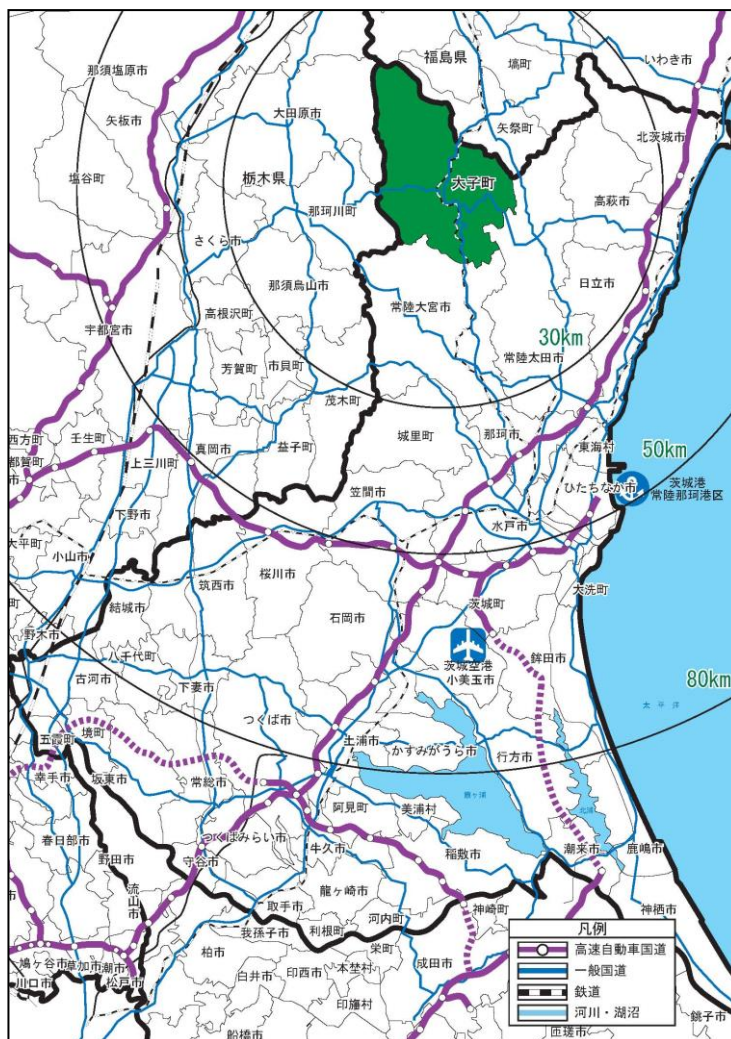
大子町は茨城県の北西部に位置し、北は八溝山系を境に福島県、西は栃木県、東は茨城県常陸太田市、南は茨城県常陸大宮市に隣接しています。

町の面積は 325.76k m²であり、県内市町村で 3 番目の広さです。

主要な交通網は、町の中央を JR 水郡線が縦断し、道路は国道 118 号が縦断、国道 461 号が横断し、町の骨格となる道路を形成しています。

町土の約 80%が八溝・阿武隈山系からなる山地で、県内最高峰となる八溝山の標高は 1,022m、平野部では中心市街地である町役場の地点で標高 103mとなり、盆地の地形となっています。

周辺の山々から中小河川が数多く流れ出し、町の中央を縦断する久慈川に合流します。これらの河川に沿って耕地や集落が散在し、中山間地域を形成しています。



位置図

2-2 統計データの整理

①人口に関する現状分析

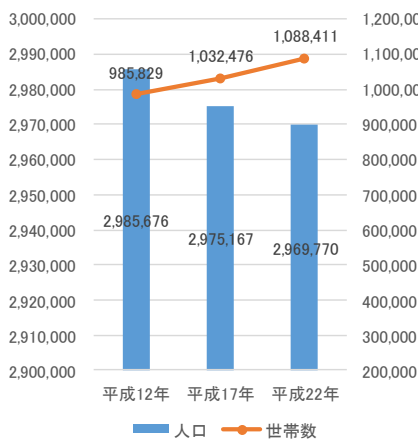
■人口と世帯数

10年間の人口推移を見ると、茨城県の総人口は減少していますが、世帯数は増加し続けています。

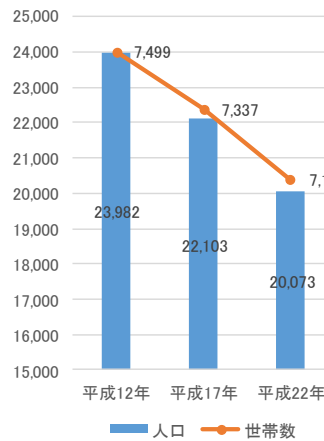
大子町は平成22年10月1日現在で人口20,073人、世帯数は7,140となっており、人口の減少が続いています。県平均と異なり世帯数も減少しています。

中心市街地がある大字大子も町全体と同様に人口・世帯ともに減少傾向が続いています。

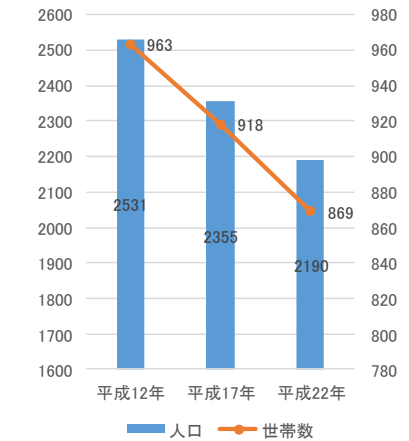
茨城県



大子町全体



大字大子(中心市街地)

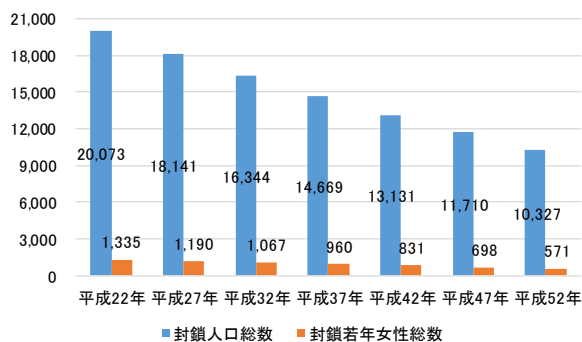


出典：国勢調査

■大子町の人口予測

平成22年から平成52年にかけて、他の市町村との人口移動が無いと仮定した封鎖人口では、総数が48.6%減少するという予測になっています。若年女性と定義する20～39歳の人口も同様に57.2%の減少と予測されています。

人口移動を含めると総数では52.7%の減少で、若年女性総数は72.6%と減少幅が大きくなり、人口流出が発生します。特に若年女性が大きく減少することになり、少子化を加速させる課題が見えてきます。



封鎖人口

	平成22年	平成52年	減少人数	人口変化率
人口総数	20,073	10,327	9,746	-48.6%
若年女性総数	1,335	571	764	-57.2%

人口移動が収束しない場合の人口

	平成22年	平成52年	減少人数	人口変化率
総数	20,073	9,503	10,570	-52.7%
若年女性総数	1,335	366	969	-72.6%

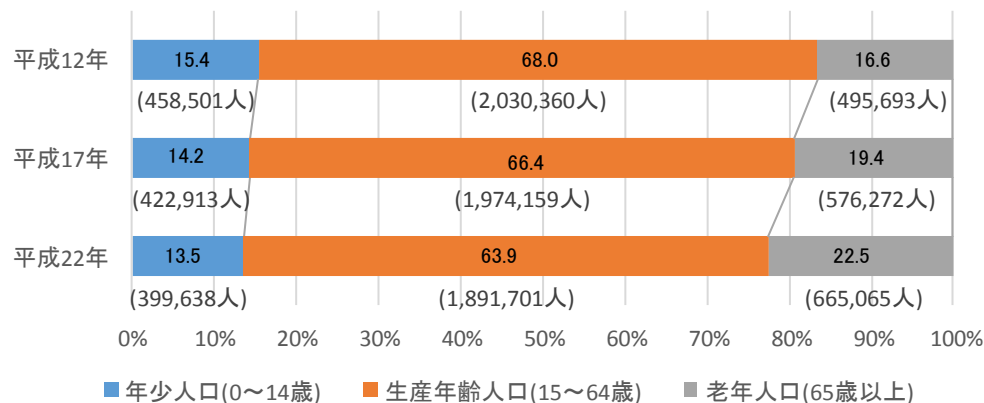
出典：人口問題研究所・日本創成会議

■年齢層の人口比率

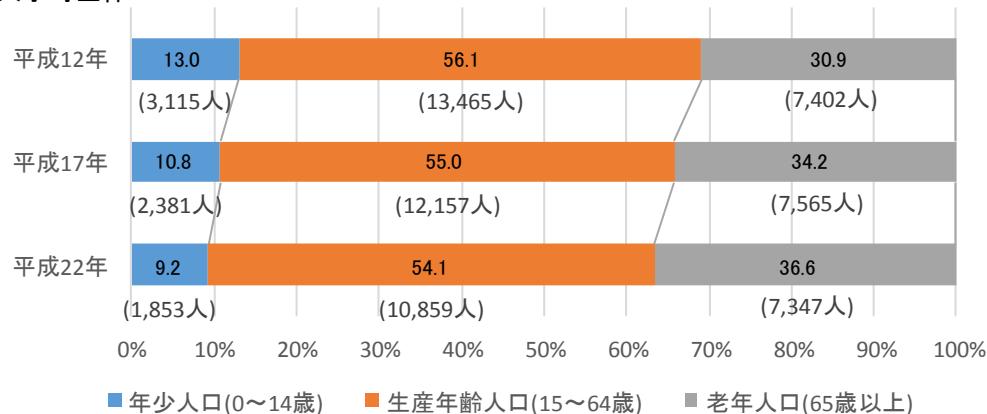
大子町の年齢層の割合を茨城県平均と比較すると、年少人口が平均より少なく、老年人口が県平均を大きく上回っています。中心市街地は町全体よりも少子高齢化が進行しています。

県内では特に少子高齢化が進行している町となっていることが課題です。

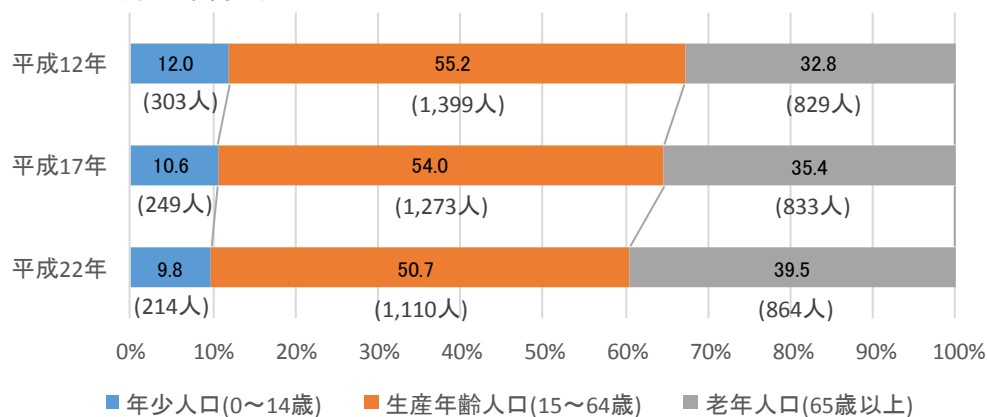
茨城県



大子町全体



大字大子(中心市街地)



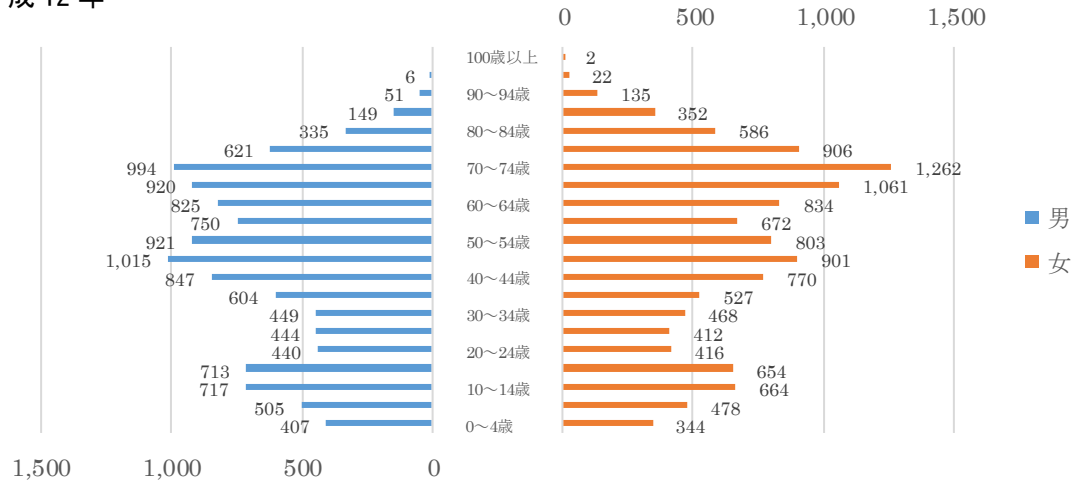
出典：国勢調査

■人口ピラミッド（大子町全体）

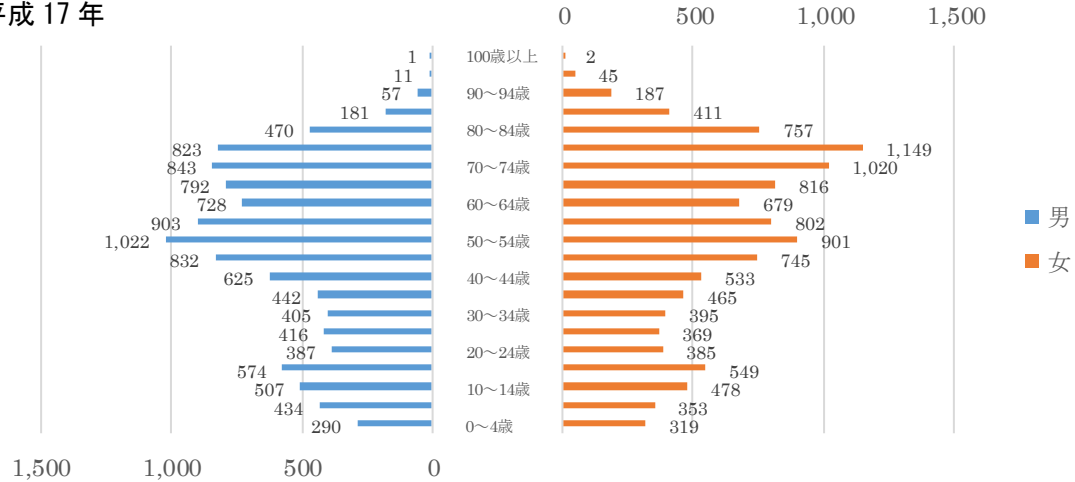
人口ピラミッドでも、若者が減少し高齢者が増加している傾向が分かります。

また、各年の15～19歳から20～24歳に至る際に人口が毎回減少していることから、学校を卒業後に大子町を離れる若者が多いと考えられ、20～24歳の人口を減少させないことが課題となります。

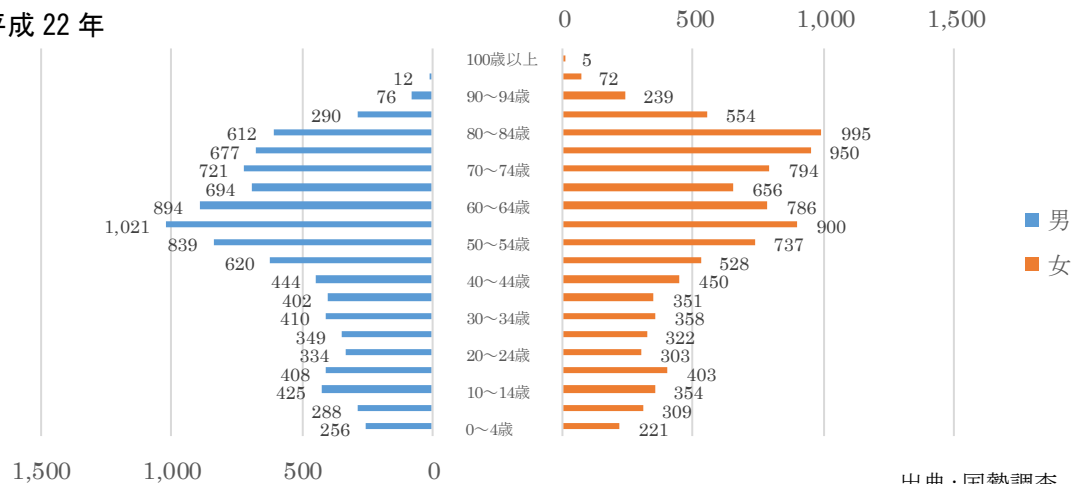
平成 12 年



平成 17 年



平成 22 年

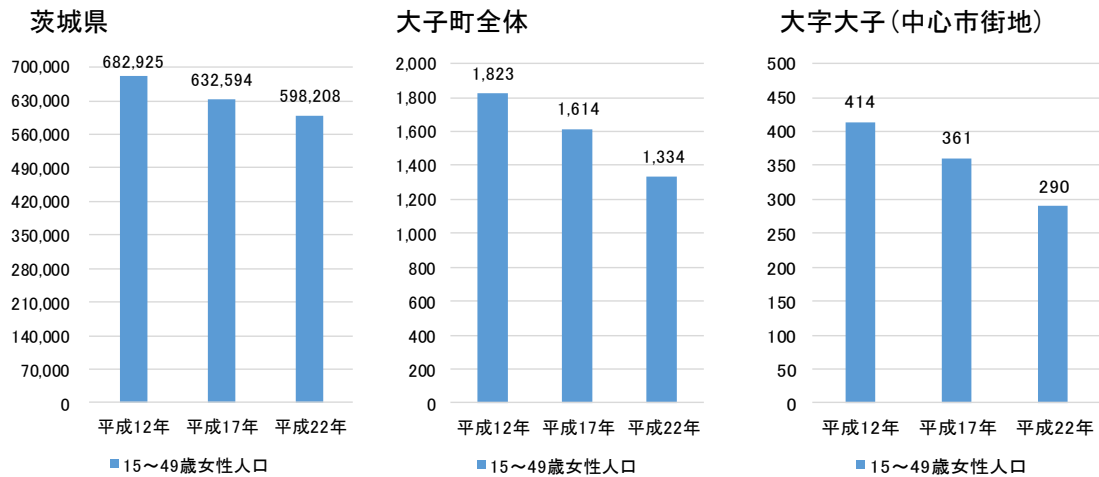


出典：国勢調査

■出生率

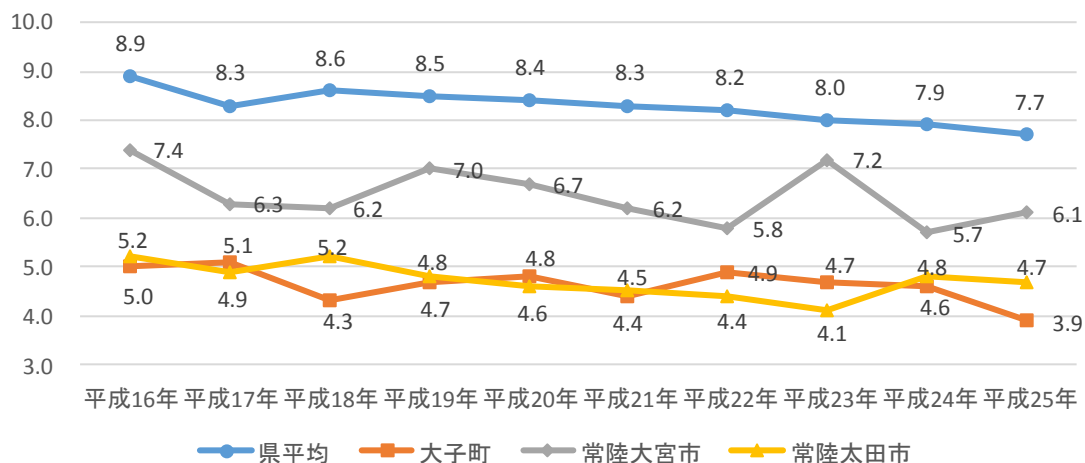
合計特殊出生率の対象となる15～49歳女性人口はいずれも減少し続けています。平成12年から平成22年にかけての減少率は茨城県が12.4%，大子町全体が26.8%，中心市街地は30%の減少となっています。

大子町は県よりも減少率が高くなっており，中心市街地ではさらに減少率が高くなっています。



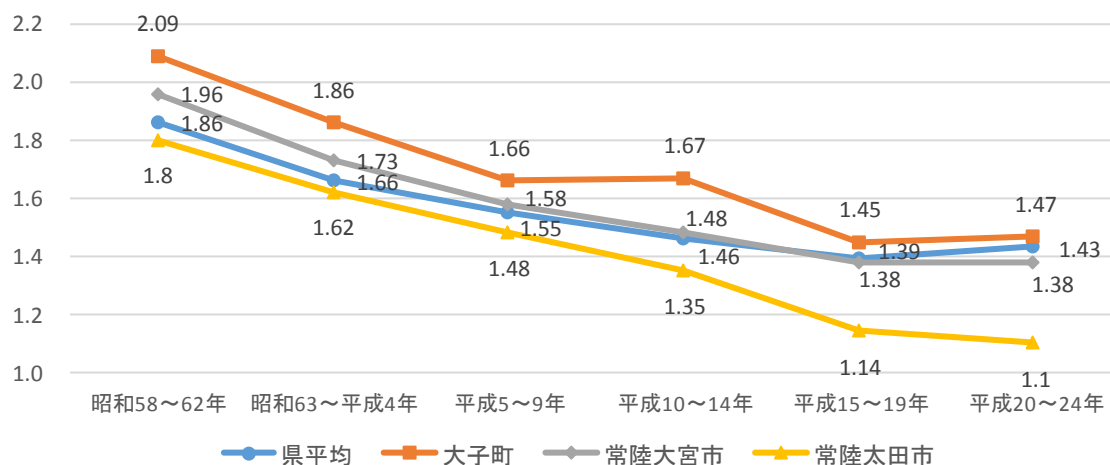
出典：国勢調査

普通出生率（人口 1,000 人当たりに対して生まれた子供の数）では、県平均を大きく下回っています。近隣市と比較すると常陸太田市と年によって順位が入れ替わっていますが、低い数値が続いており、平成 25 年には県内で最も少ない値となっています。



出典：人口動態調査

一方、合計特殊出生率(15～49 歳の 1 人の女性が生涯に産む子どもの数)の推移では、減少傾向ですが、平成 20～24 年など数値が上昇する年があるほか、県平均、近隣市の常陸太田市や常陸大宮市を上回っています。



出典：人口動態保健所・市区町村別統計

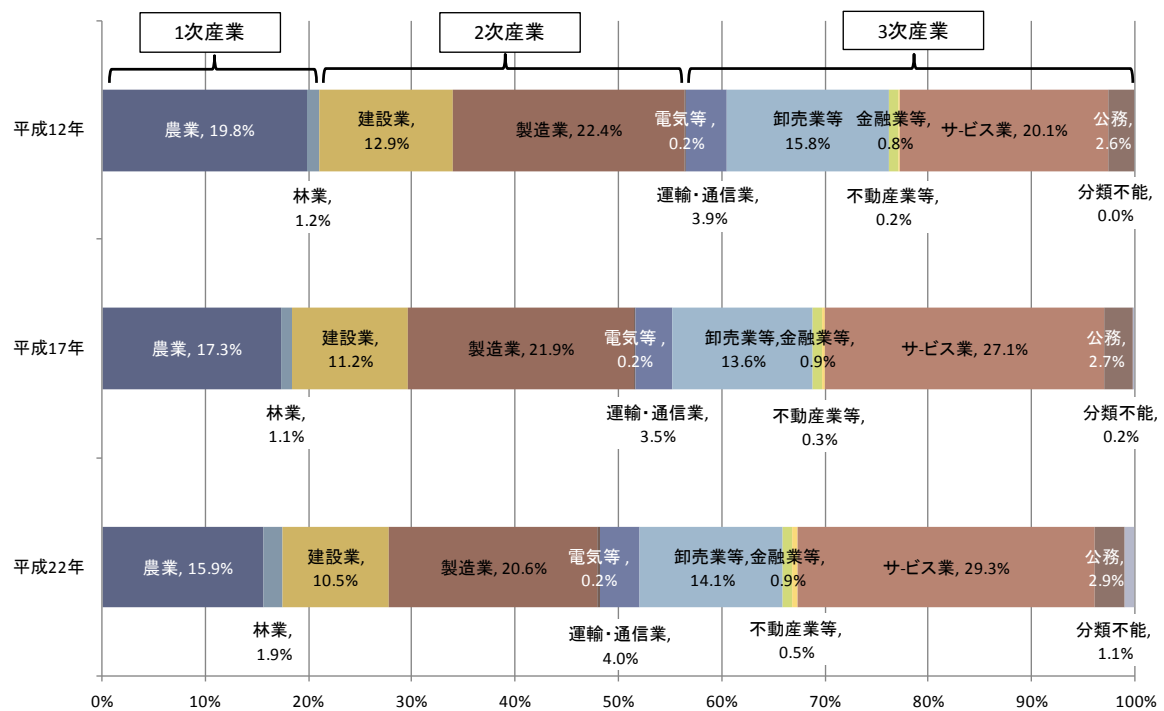
合計特殊出生率が県平均を上回っていることは、大子町の現状の指標としてプラス材料といえます。

②産業に関する現状分析

■大子町の産業構造

産業別人口は、第 3 次産業の割合が増加し、農業などその他の産業の割合が低下しており、産業構造が変わってきているといえます。

割合が一貫して増加しているのはサービス業で、約 9%上昇しています。一方で減少傾向が続いているのは、農業、建設業、製造業となっています。



出典：国勢調査

■大子町の産業別就業人口

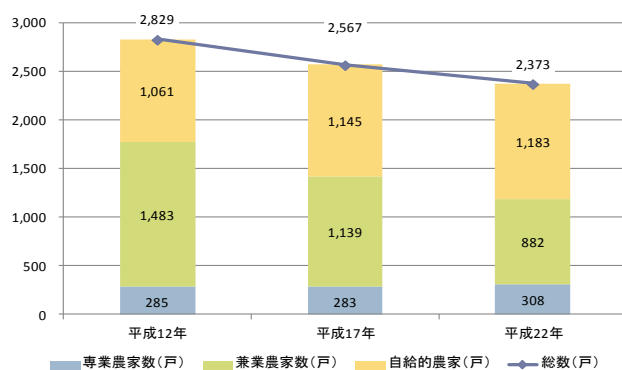
就業人口を見ると、農業・林業、工業、商業のいずれにおいても減少しています。

農業・林業は兼業農家数が大きく減少していますが、自給的農家（経営耕地面積 30 a 未満，農産物販売額 50 万円未満）が増加しており，小規模な農家が増加していると考えられます。

工業の事業所数は減少傾向にありますが，製造品出荷額は微増が続いています。

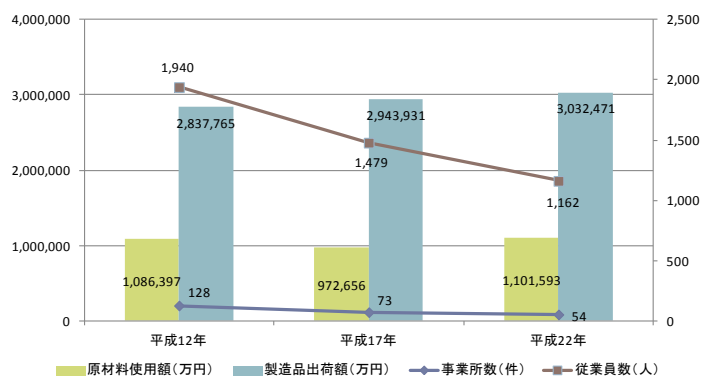
商業は年間販売額，商店数，従業員数のいずれも減少しており衰退傾向にあります。

農業・林業



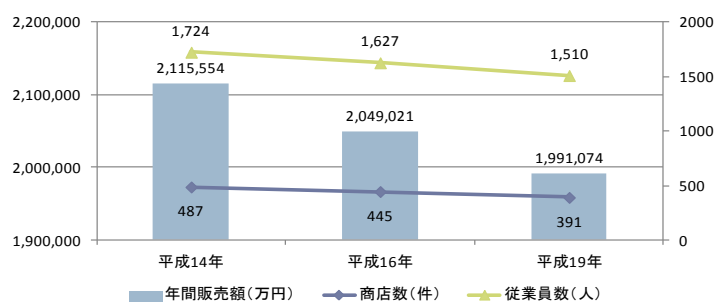
出典：農林業センサス

工業



出典：工業統計調査

商業



出典：商業統計調査

■ 中心市街地に立地する事業所数・従業者数

大字大子(中心市街地)に立地する事業所数は全体的には減少傾向にあります。特に卸売業・小売業の減少が大きくなっています。

従業者数は、建設業と医療・福祉で増加傾向であることに加え、郵政民営化により運輸業、郵便業での増加が大きかったこともあり、平成18年から平成24年にかけては微増となっています。

	H18年	H21年	H24年	備考
総数(公務を除く)	295 1,719	286 1,900	256 1,727	
農林漁業		2 10		
建設業	19 117	22 126	23 158	
製造業	10 141	10 123	10 143	
情報通信業	2 10	3 12	3 7	
運輸業, 郵便業	8 78	8 240	6 210	平成19年郵政民営化
卸売業, 小売業	126 482	114 510	98 439	
金融業, 保険業	5 54	4 50	4 47	
不動産業, 物品賃貸業	5 9	7 16	7 12	
学術研究, 専門・技術サービス業		10 41	8 14	平成21年より分類
宿泊業, 飲食サービス業	29 85	28 92	26 71	
生活関連サービス業, 娯楽業		33 88	34 79	平成21年より分類
教育, 学習支援業	14 125	14 122	9 13	
医療, 福祉	19 363	21 394	18 490	
複合サービス事業	2 52	1 15	1 15	
サービス業(他に分類されないもの)	51 193	9 61	9 29	

	事業所数
	従業者数

出典：事務所・企業統計調査(H18)，経済センサス(H21, 24)

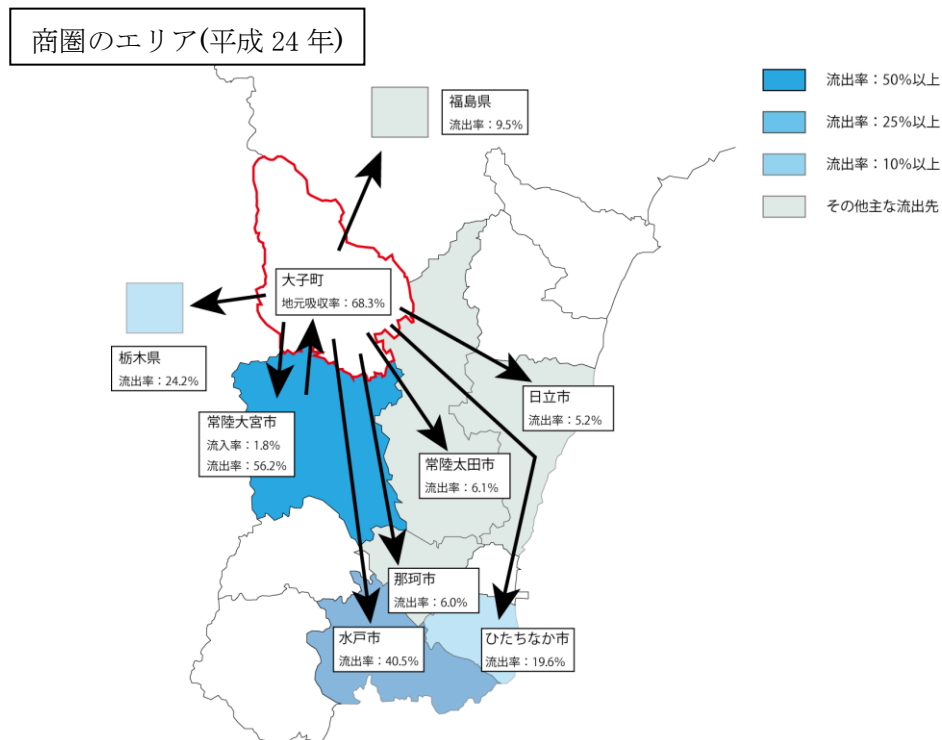
■ 大子町民の購買行動

大子町の商圈は、(財) 常陽地域研究センター「2013 茨城県生活行動圏調査」によると、大子町の行政人口 19,355 人(平成 24 年)に対し、17,306 人しか吸収しておらず町内で購買活動を賄いきれていないと考えられます。

周辺からの流入は非常に少なく、常陸大宮市民の 1.8%が訪れる程度でほかの市町村は極めて少なくなっています。流出は大子町民の 56.2%が常陸大宮市へ買い物に行くのをはじめ、水戸市、ひたちなか市や他県へ行く町民が多くなっています。特に服や身の回り品は、町内より他市町村で買い物をするという回答が多くなっています。

商圈の流出人数 流出率(地元吸収率)		商圈 (分野平均)	食料品・ 日用品	紳士服・婦人 服・子供服	身の回り品	リビング用品	余暇・趣味 関連商品
吸収人口計		17,306 人	32,538 人	13,884 人	9,384 人	16,622 人	14,105 人
流出率	うち大子町内から (地元吸収率)	13,215 68.3%	18,680 96.5%	11,371 58.8%	8,659 44.7%	15,361 79.4%	12,005 62.0%
	他市町村へ	常陸大宮市 10,879 56.2%	常陸大宮市 13,503 69.8%	常陸大宮市 12,097 62.5%	水戸市 9,423 48.7%	常陸大宮市 8,602 44.4%	常陸大宮市 11,025 57.0%
		水戸市 7,848 40.5%	水戸市 5,852 30.2%	水戸市 9,678 50.0%	常陸大宮市 9,168 47.4%	水戸市 5,223 27.0%	水戸市 9,065 46.8%
		栃木県 4,692 24.2%	栃木県 4,726 24.4%	栃木県 6,290 32.5%	栃木県 4,839 25.0%	ひたちなか市 2,765 14.3%	栃木県 5,145 26.6%
		ひたちなか市 3,796 19.6%	ひたちなか市 3,151 16.3%	ひたちなか市 4,597 23.8%	ひたちなか市 3,565 18.4%	栃木県 2,458 12.7%	ひたちなか市 4,900 25.3%
		福島県 1,846 9.5%	福島県 2,251 11.6%	福島県 2,661 13.8%	常陸太田市 1,019 5.3%	日立市 922 4.8%	福島県 2,940 15.2%

※各調査時点より 1 年以内に 1 回以上いったことのある市町村を複数回答で集計



資料：常陽地域研究センター「2013 年茨城県生活行動圏調査報告書」

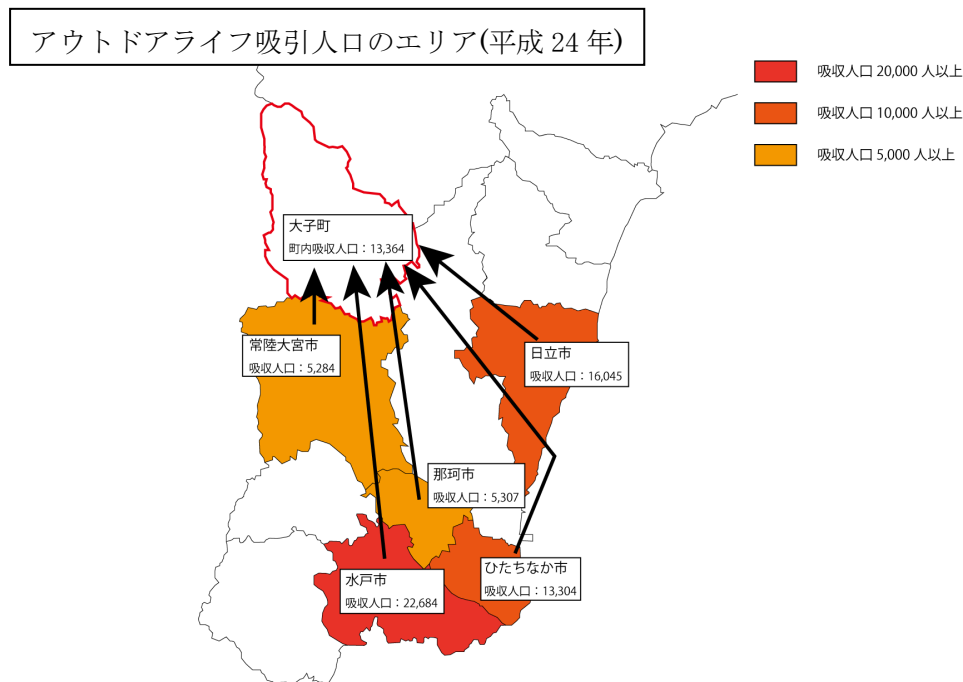
■大子町の余暇吸収人口

同調査において大子町の余暇圏は、19,355 人(平成 24 年)の行政人口に対し、51,248 人を吸収し、商圈とは異なり大子町を訪れる人が多くなっています。

周辺からの流入は、吸収率で見ると常陸大宮市民の 6.7%(5,284 人)が訪れる程度で、ほかの市町村は極めて少なくなっていますが、人数では水戸市が 22,684 人と最も多くなっています。項目別で見ると、アウトドアライフの吸収率は 592.7%と特に多く、大子町でアウトドアライフを楽しむ人が多くなっています。

		余暇圏 (分野平均)	芸術・文化 活動	娯楽活動	アウトドア ライフ	スポーツ	家族連れの 外食
吸収人口計(人)	吸収人口計	51,248 人	18,075 人	48,146 人	114,717 人	41,942 人	33,360 人
	うち大子町内から	11,769	14,956	5,955	13,364	12,788	11,781
	他市町村から	水戸市 8,807	小美玉市 630	水戸市 10,168	水戸市 22,684	水戸市 6,406	日立市 4,528
		日立市 6,266	常陸大宮市 504	ひたちなか市 6,175	日立市 16,045	日立市 4,180	水戸市 4,509
		ひたちなか市 5,031	那珂市 416	日立市 6,169	ひたちなか市 13,304	常陸大宮市 3,567	常陸太田市 2,847
		常陸大宮市 2,938	日立市 409	常陸大宮市 2,987	那珂市 5,307	常陸太田市 3,170	ひたちなか市 2,668
		常陸太田市 2,706	北茨城市 309	那珂市 2,688	常陸大宮市 5,284	ひたちなか市 3,006	常陸大宮市 2,348
吸収率	吸収人口/行政人口	264.8%	93.4%	248.8%	592.7%	216.7%	172.4%
	うち大子町内から	60.8%	77.3%	30.8%	69.0%	66.1%	60.9%
	他市町村から	常陸大宮市 6.7%	小美玉市 1.2%	常陸大宮市 6.8%	常陸大宮市 12.0%	常陸大宮市 8.1%	常陸大宮市 5.3%

※吸収人口計は調査時点から 1 年以内に、県内他市町村から訪れたことのある人数の総計

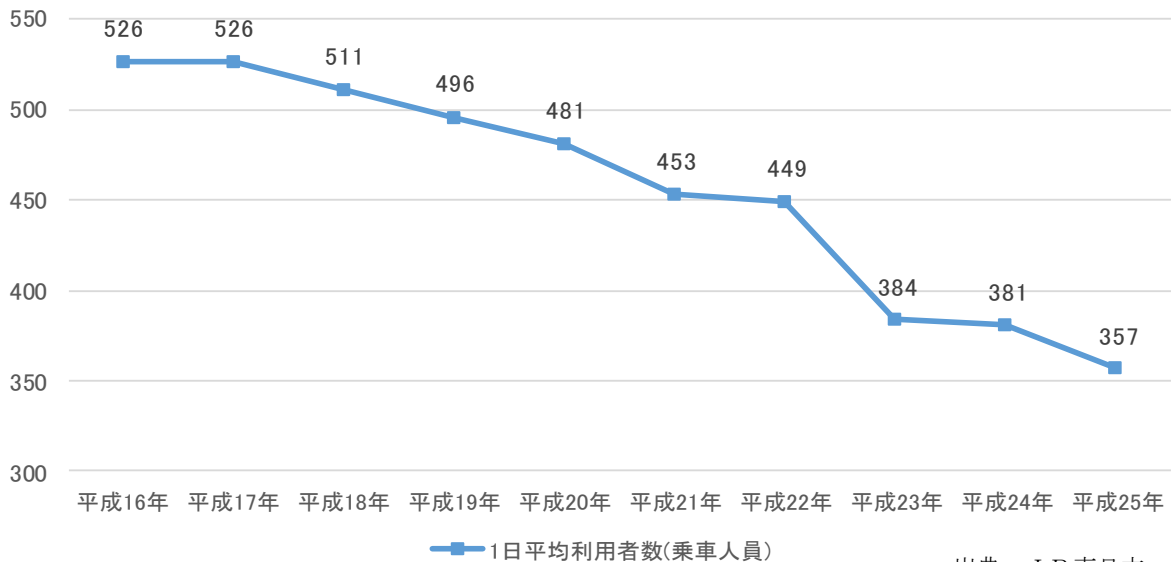


資料: 常陽地域研究センター「2013 年茨城県生活行動圏調査報告書」

■常陸大子駅利用者数の推移

中心市街地に位置する常陸大子駅の年間の1日平均利用者数(乗車人員)は10年間減少し続けています。

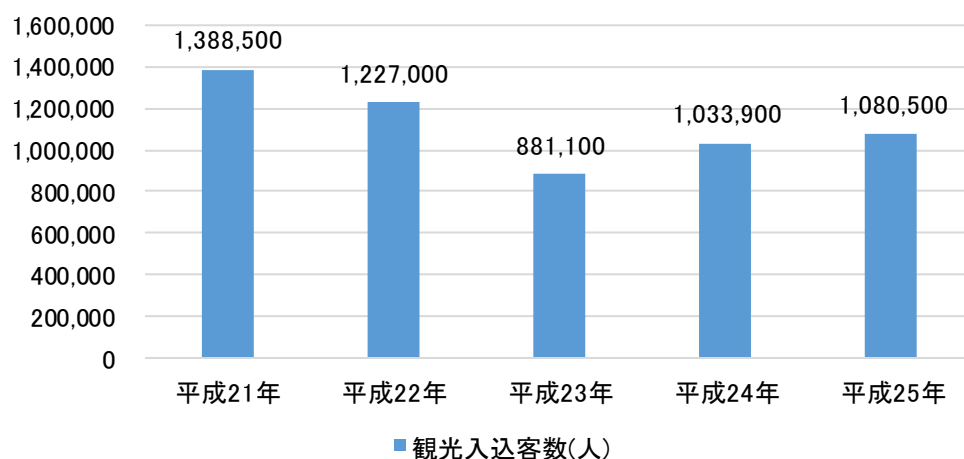
平成22年と23年で大きく利用者が減少しているのは東日本大震災の影響もあったと考えられますが、その後も回復しておらず、利用者の減少が課題となっています。



■大子町の観光入込客数の推移

観光入込客数は、東日本大震災のあった平成23年に大きく落ち込みましたが、翌年から回復傾向にあります。しかし、震災前の平成22年の水準には戻っていないため、観光入込客数を震災前の水準に戻すことが課題です。

また、平成22年に町で調査した中心市街地観光入込客数は7,000人となっています。



2-3 地域資源の整理

中心市街地活性化を図るためには、町内の各種地域資源をうまく取り込み、役立てることが重要です。そこで、太子町の中心市街地の活性化に関連する地域資源の状況を整理します。

(1) まちの歴史や文化を伝える【歴史・文化資源】

中心市街地には、十二所神社をはじめとする神社仏閣や、文化を伝える石碑などの文化財があります。また、十二所神社の春季例大祭ぶんぬき祭りなど、地域行事も行われています。

また、多くの文化財が残っており、それらを保存する動きの一つとして、講演会等も実施されています。



ぶんぬき祭り



十二所神社

(2) 人々の生活風景を伝える【生活資源】

中心市街地には、どこか懐かしい風景が今も多く残っています。家々の間を縫う路地空間や水路、知り合いと出会える商店街、大正、昭和の雰囲気を醸し出す趣のある板塀の建築物、気軽に休めるベンチ、店先の花壇などおもてなしの心がまちなかに溢れています。

また、太子らしい板倉景観を後世に伝えるための保存活動も行われています。



庭先の花壇



板倉沿いの路地空間

(3) 雄大な自然が魅せる【自然資源】

中心市街地の高台からは、まちなみと奥の青々とした山を見渡すことができます。久慈川では、アユ釣りや、やなが設置されるなど、水辺のレジャーを楽しむことができます。また、美しい清流の風景を愛でるための遊歩道も整備されています。

また、林業のまちとして栄え、八溝杉を使った校舎の外観や内装は、郷愁を誘う趣のあるもので、自然の恵みを活かした地域資源に溢れています。



久慈川沿いの遊歩道



久慈川と押川の合流点



高台から中心市街地を望む

(4) まちの発展を支えてきた【産業資源】

中心市街地には、昔使われていた銀行や蔵など、まちの発展を支えてきた歴史的な建造物が残っています。現在は、新たな使命を得て、住民や観光客をもてなす空間として活用されている建物もありますが、空き家となっているものもあります。

また、自然の恵みと先人の知恵と技術を活かしたこんにゃくや、日本三大地鶏の一つである奥久慈しゃも、栽培南限のリンゴなどを活用した特産品など数多くの資源があります。ほかにも伝統工芸の天子漆は江戸時代に水戸藩第2代藩主・徳川光圀によって推奨されて以来の伝統があり、かつ非常に質が高いものとなっており、輪島塗や春慶塗など高級漆器に仕上げ用としても使われています。

これらの産業資源を活かし、大学や企業、NPO法人などの連携による、様々な活性化の取り組みが行われています。



天子漆



こんにゃく



ギャラリー

2-4 上位計画及び関連計画

中心市街地活性化を検討するにあたり、大子町全体や対象地域のまちづくりに関して、これまでに検討されている内容を整理し、あらかじめ踏まえることとします。

(1) 大子町第5次総合計画

①まちの将来像

まちづくりの基本は、そこに住む人が愛着と誇りを持って生き生きと安全で安心に暮らすことができ、また訪れる人にも魅力を感じさせるまちをつくり、自然環境や歴史・文化等の地域の特性を生かして、その魅力を維持・向上させていくこととしています。そして大子町の将来像を「花と緑と若者の住む 互いに支え合う心豊かなまち」と定め、町民と企業、そして行政がこの将来像を共有し、一体となってその実現を目指しています。

【大子町の将来像】

花と緑と若者の住む 互いに支え合う心豊かなまち

②まちづくりの基本姿勢及び目標

目指すべき町の将来図を実現するため、本町のおかれている現状や課題等を踏まえ、今後のまちづくりにあたっての「2つの基本姿勢」と、「3つの目標」を次のように掲げています。

【2つの基本姿勢】

①内部からの活性化

町内に存する地域資源（人、特産物、イベント等）をより一層効果的に活用するとともに、潜在力を磨き、まちの活性化に結びつけていきます。

②外部からの活力導入

大学等が有する高度な専門的知識や都市住民との交流、企業の誘致等による町外からの活力を積極的に生かした施策を推進します。

【3つの目標】

①住みよいまち

- 結婚や出産、子育てに希望を持って暮らせるまち
- 高齢者が生きがいを持って、健康で安心して暮らせるまち
- 確かな学力と健やかな体、豊かな心を育む教育のまち

②活力あるまち

- 若者から高齢者まで生き生きと働ける環境のまち
- 安全で安心な品質の高い特産品を提供するまち

③美しいまち

- 四季折々の自然の恵を豊かに感じながら、人々が活発に行き交うまち
- 豊かな自然を守るため、町民が一体となって環境保全に取り組むまち

(2) 都市計画マスタープラン

平成 15 年に策定された大子町都市計画マスタープラン(平成 32 年目標)においては、都市づくりの将来像を「自然と共生する豊かな大子」としています。

市街地整備に関しては、「定住の確保や地域活力の維持のため、中心的な市街地の再生や観光施設機能の充実、整備等を図る」という方針が示されています。また、「地域の特徴的な風景を景観資源と位置付け、それらを保全、活用した景観形成を進める」ことを目標として掲げています。

①都市づくりの課題

- ・ 広域的な交通網整備
- ・ 既成市街地の再生
- ・ 身近な生活環境の整備・充実
- ・ 高齢社会を前提とした生活環境の整備
- ・ 豊かな自然環境の維持・保全

②都市づくりの基本理念

- ・ 豊かな山川が織りなす自然や、袋田の滝をはじめとした観光資源をより一層活かして行く
- ・ 町の活力維持には、交流人口の拡大と密接な関係があることから、広域的な視野から見て町の吸収力を高めながら、交流促進に資する基盤施設の整備を進めていく
- ・ 町の活力維持とともに子供からお年寄りまで、各年代がバランスよく、住み続けられる生活重視のまちをつくる
- ・ 地球規模での環境問題への意識の高まりや、自然との共存がまちづくりのテーマとしてより重要になる中で、本町の豊かな自然がそうした志向性を具体的に体現できるものである

③都市づくりの将来像（テーマ）

自然と共生する豊かな大子

④都市づくりの基本方針

- ・ 自然環境と共生し質の高い空間あふれる都市づくり
- ・ 多様な交流を生み出す都市づくり
- ・ 都市的利便性向上による生活重視の都市づくり

⑤中心市街地に関する方針

●市街地整備の方針

・中心市街地の再生

主に JR 水郡線常陸大子駅周辺において、本町の中心的な市街地あるいは観光都市としての機能充実のため、町有地の利活用検討や、老朽木造建築物密集市街地の改善、骨格的な道路網の見直し・整備による再生を図ります。

・観光施設の整備・充実

既存の主要な観光施設の利用促進や、その他の公的施設との連携強化を図ります。

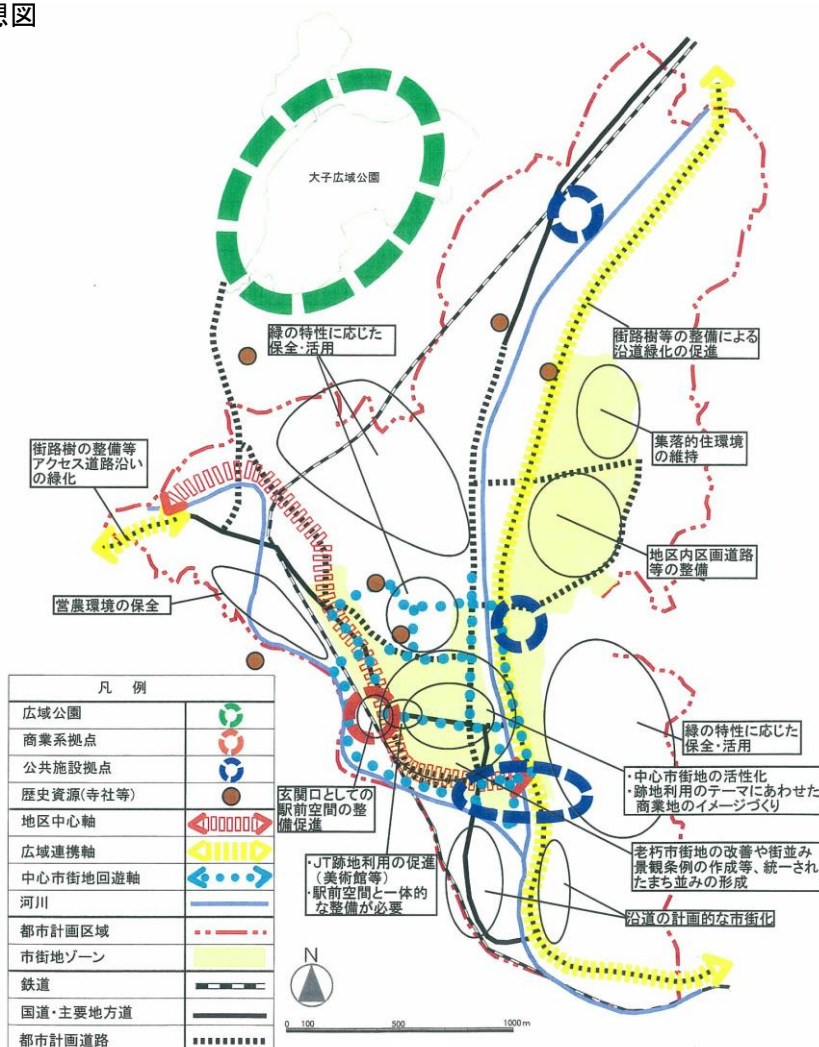
●観光・アメニティ（快適性）環境の整備に関する方針

・駅前環境の整備充実（案内看板、店舗等の充実）や飲食店等の充実による賑わいづくり

・統一されたまちなみの形成（木造・和風を基調）

・散策路としての駅前通りや市街地内道路の整備による回遊性の充実

全体構想図



(3) 都市再生整備計画【過去計画：大子駅周辺地区 H18～H22】

常陸大子駅周辺地区においては、過去に平成 18～22 年を計画期間とする都市再生整備計画を実施しています。

【大目標】 「中心市街地の機能再生と人々の交流拠点づくり」

【小目標】

- ① 地域の交通・コミュニティ・経済の拠点である中心市街地の機能再生を図る
- ② 国道 461 号の整備に合わせ観光客を取り込み、町の人々と産物にふれる交流拠点づくりをし賑わいを創出する
- ③ 中心市街地内の歩道等の整備を図り歩行環境の改善と回遊性の向上を図る

【計画区域の整備方針】

整備方針① 中心市街地の機能再生

中心市街地に人々が集まり賑わいを創出するための核となり、地域住民が文化活動や子育てを通じて集うことの出来る複合施設の整備を JT 跡地に行うとともに、町の顔である大子駅前ロータリーの整備に合わせ水郡線や駅前商店街の利用促進を図るため既存の町営駐車場の拡充を行います。

さらには、商工会や商店主等との連携を取りながら商店街の景観についての調査検討を行いデザイン統一化などにより商店街としてのイメージと集客力の向上を図ります。

- | | |
|------------|----------------|
| ・地域交流センター | ・子育て世代活動支援センター |
| ・駅前ロータリー整備 | ・駅前駐車場整備 |
| | ・商店街景観検討調査 |

整備方針② 中心市街地の交流拠点づくり

国道 461 号が整備され、東西軸の機能が強化されることで、中心市街地へ来訪する観光客の増加が見込まれることから、町の観光案内や特産品等の情報発信を行うとともに、観光客と町民、あるいは町民同士が各種のイベント等を通じ、ふれあい・交流の場を創出する「観光交流センター」の整備を行います。

また、地域の人々が気軽に集える拠点としての河川公園の整備や、中心市街地への誘客の目玉として SL 展示場を移設します。

- | | | |
|-------------|---------|-------------|
| ・観光交流センター整備 | ・河川公園整備 | ・SL 展示場移設事業 |
| ・建物除却事業 | ・モニュメント | |

整備方針③ 歩行環境の改善と回遊性の向上

駅から病院が立地する地域へアクセスする道路の歩道に段差があり、通院する高齢者や住民の方々が支障をきたしているため段差を解消し、歩行環境の改善を図ります。

また、国道 461 号の整備に合わせ、国道と市街地を結ぶ町道を整備するとともに、市街地とその周辺に分布する歴史や自然を学び、文化施設等を散策するためのウォ

ーキングコースや、情報提供を行うためのサイン等の整備を行うことにより、市街地内における回遊性や歩行環境の向上を図ります。

- ・町道 101 号線（都市計画道路後山線）歩道設置
- ・町道 2158 号線歩道の段差解消(歩道部下げ)
- ・町道 2152 号線整備(国道 461 号接続部)
- ・街中ウォーキングコース整備 ・回遊サイン整備

※整備方針③の主要な事業におけるカッコ書きは本構想における補足追記事項

(4) 社会資本整備総合計画（都市再生整備計画）【現行計画：常陸大子駅周辺地区 H26～H30】

現行の常陸大子駅周辺地区の都市再生整備計画（平成 26～30 年）の内容は以下となっています。

なお、計画は H26 年時点のものであり、今後変更する可能性があります。

【大目標】

「活力ある中心市街地の再生と豊かな交流を育むまちづくり」

【小目標】

- ① 地域資源を効果的に活用し、大子らしいまちなみ景観の創出と、まちなかの魅力向上のための空間整備を図る。
- ② まちなかの回遊性の向上と、景観や安全に配慮した道路環境の整備を図る。
- ③ 中心市街地の活性化の拠点として、町民と来訪者の豊かな交流を育む文化交流拠点の整備を図る。

【計画区域の整備方針】

整備方針① 地域資源を効果的に活用し、大子らしいまちなみ景観の創出と、まちなかの魅力向上のための空間整備を図る。

【基幹事業】

高質空間形成施設：町道 2511 号線整備

高質空間形成施設：町道 2515 号線整備

地域生活基盤施設：まちかど公園 1，まちかど公園 2

【提案事業】

地域創造支援事業：空き店舗活用事業

まちづくりワークショップ

整備方針② まちなかの回遊性の向上と、景観や安全に配慮した道路環境の整備を図る。

【基幹事業】

道路事業：主要地方道大子・那須線整備

道路事業：町道 101 号線整備

道路事業：町道 2158 号線整備

道路事業：町道 2459 号線整備

高質空間形成施設：町道 2511 号線整備

高質空間形成施設：町道 2515 号線整備

高質空間形成施設：まちなか回遊散策路整備

【提案事業】

まちづくりワークショップ

整備方針③ 中心市街地の活性化の拠点として、町民と来訪者の豊かな交流を育む文化交流拠点の整備を図る。

【基幹事業】

高次都市施設：大子交流センター整備

【提案事業】

地域創造支援事業：空き店舗・空き家活用事業

大子交流センター等事業効果分析調査

まちづくりワークショップ

常陸大子駅周辺地区（茨城県大子町）整備方針概要図

